

指導しきる授業を行うために、全ての先生が、 全ての授業で大切にしたい「3つの見届ける」

指導しきる授業を行うとは、これまでの指導の土台にして、「どの子にも確実に力が付いているかどうかを見届ける」ことを意識した授業に取り組み続けることです。全ての先生が、次の「3つの見届け」を意識し、指導改善に取り組んでいきましょう。

実態を見届ける（見極める）

- 授業前の子どもの実態を見届ける（見極める）ことが重要です
本時、どんな力を身に付けることが必要か、本時身に付けるべき基礎的・基本的な内容は何かを明確にして授業に臨む。
 - 1 全国学力・学習状況調査や県学習状況調査等を自ら解き、指導内容の把握に活かす。また、その誤答分析等、客観的データに基づき、実態を把握する。
 - 2 指導内容や実態を十分に踏まえ、「今日、学習することは○○」、「今日、みんなができるようになることは○○」等、具体的に分かりやすく、子どもに示す。

学習状況を見届ける

- 授業中の子どもの学習状況を見届けることが重要です
一人一人の子どもが学んだ内容や言葉を活用させて話させる、聞き取らせるなど、どの子どもが確実に理解できているかどうかを把握しつつ、指導する。
 - 1 誤答分析の結果を踏まえた「つまずきに応じた指導の手立て」を準備するなど、身に付ける力を、どの子にも確実に付けさせるために必要な手立てを考える。
 - 2 身に付いているか、考えることができているか、一人一人の状況を把握し、その手立てを活用した机間指導により、必要な指導をどの子にも確実に行う。

定着状況を見届ける

- 授業終末の子どもの定着状況を見届けることが最も重要です
「後は宿題で、次の時間に」で終わらせない終末の場と時間を設ける。この1時間で、どの子にも確実に身に付いたかを見届ける終末の指導を継続する。
 - 1 「今日の1時間で、このことを学習した」と、最後に、どの子どもが言える、まとめることができる、振り返ったりできる終末の場と時間を十分に確保する。
 - 2 今日の1時間で学んだことを活用する学習や、繰り返し取り組む学習等を位置付ける終末の場と時間を十分に確保する。

小5国語科 「3つの見届ける」

単元名 伝記を読んで、自分の生き方について考えよう「百年後のふるさとを守る」

単元の指導計画

第1次	第2次				第3次	
第1時 伝記を読んでリーフレットにまとめて紹介するという学習の見通しをもつ。 【読む カ】	第2時 「百年後のふるさとを守る」を読み、伝記の特徴と文章構成を確認する。 【読む ウ】	第3時 儀兵衛がしたこととその考え方をとらえてリーフレットに書く。 【読む ウ】	第4時 筆者が考える儀兵衛の業績の意味をとらえてリーフレットに書く。 【読む ウ】	第5時 筆者が考える儀兵衛の業績の意味に対して、自分が考えたことをリーフレットに書く。 【読む ウ】	第6、7時 「百年後のふるさとを守る」で学習したことを使って、選んだ伝記を紹介するリーフレットを書く。 【読む カ】	第8時 書き上げたリーフレットを読み合い、感想を伝え合う。 【読む オ】
言語活動：選んだ伝記（並行読書による）を紹介するリーフレットをつくる						

第4時

ねらい

百年先のふるさとのことを考えて備えること、自助の意識と共助の意識をもつことは、災害後の対応と災害から身を守ることに役立つという、筆者が考える儀兵衛の業績の意味をとらえることができる。（読むこと ウ）

学習活動

※リーフレットの筆者が考える儀兵衛の業績の意味を書くために本時の学習があることを確かめる。

1 儀兵衛の行ったことについて「学ばなければならないだろう」と筆者が言っていることは何かをつかむ。

リーフレットをつくるために、筆者が「学ばなければならないだろう」と言っていることをまとめよう。

2 筆者が考える儀兵衛の業績の意味を追究する。

- ・百年先のふるさとのことを考えて堤防を造ること、自助と共助の意識をもつことは、災害後の対応と災害から身を守ることに役立つ。
- ・自分たちの力で、互いに助け合いながら、自分たちが住むところを守るのだという意識である。

3 筆者が考える儀兵衛の業績の意味をまとめ、条件に応じてリーフレットに書く。

筆者は、先のふるさとのことを考えて「百年後にも役立つ堤防」を造ったこと、自分たちの力で、互いに助け合いながら、自分たちが住むところを守るという「自助の意識と共助の意識」をもつことが、災害後の対応と防災という観点から現代の真の再生に役立つということを学ばなければならないだろうと言っている。

4 自分の選んだ伝記から、人物の業績の意味の書かれているところを探して付箋を貼る。

※次時に自分の考えを書き込むことを予告する。

○実態を見届ける（見極める）

○既習の内容の定着を見届ける。

- ・目的に応じて、文章の重要な点を的確に押さえることができているか。
- ・分量や表現の仕方などに合わせてまとめることができているか。

○本時の位置（役割）を見極める。

- ・リーフレットを作成するという目的とともに、本時の学習内容を明らかにする。

○学習状況を見届ける

○根拠として取り上げている部分を見届ける。

- ・儀兵衛の行動の中から、今のわたしたちに「役立つ」と筆者が述べている部分に着目しているか。
- ・今のわたしたちに「役立つ」ことの中から、「自助の意識と共助の意識」の内容をそれぞれ書き出しているか。

○定着状況を見届ける

○自分の考えをもち、書くことができたかを見届ける。（10分程度）

- ・筆者が考える儀兵衛の業績の意味を文章中の表現を引用しながらリーフレットに書くように指導し、その内容を確認する。
- ・自分が選んだ伝記から人物の業績の意味を見つけているか確認をする。

中2国語科 「3つの見届ける」

単元名 論理をとらえる「モアイは語る－地球の未来」

単元の指導計画

第1次	第2次					第3次
第1時 意見文のテーマを新聞等から探し、自分の立場や考えを明らかにする。 【書く ア】	第2時 文章全体の構成を考え、自分の意見文の序論と結論を明らかにする。 【読む ウ】	第3時 本論の4つの部分を筆者はなぜこの順序で述べたかを考えてまとめる。 【読む イ】	第4時 自分の意見文の「本論」の内容を付箋に書き、その順序と効果について考える。 【読む ウ】	第5時 「森林は文明を守る生命線なのである」の根拠を考えるとともに自分の意見文の根拠を整える。 【読む イ】	第6時 意見文の主張に説得力をもたせるために使えそうな構成や表現とその理由を考え整理する。 【読む ウ】	第7, 8時 根拠となる事実や具体例を示しながら、400字程度で意見文を書く。 【書く ウ】 <テーマ例> ・ノーベル平和賞について ・ゆるキャラで町おこし ・自然災害に対してできること
言語活動：根拠を示しながら意見文を書く						

第6時

ねらい

イースター島と地球を対比させる文章構成や、具体的な数字、強調表現等の工夫を用いて主張に説得力をもたせていることを読み取ることができる。（読むこと ウ）

学習活動

- 1 これまでに集めた意見文の主張を支える根拠を振り返る。

意見文の主張に説得力をもたせるために、安田さんの文章構成・表現の仕方を学んで整理しよう。

- 2 説得力を増す文章構成・表現の仕方とその理由を追究する。
 - ・表現の仕方にかかわる工夫（具体的な数字、強調表現等）が分かる部分を見付け、そのような表現をすることで何を伝えたかったかを考え、ノートにまとめる。
 - ・構成にかかわる工夫（イースター島と地球を対比して述べていること）を読み取り、対比することで筆者が何を伝えたかったかを考え、ノートにまとめる。

- 3 題名に着目し、「イースター島」という言葉ではなく、あえて「モアイは語る」という言葉を入れて題名にした筆者の意図は何か考える。
 - ・文明崩壊の「象徴」として位置付けている。

- 4 本時の学習のまとめを書く。

強調表現や読者への問いかけ、具体的な数字の提示、イースター島と地球というように対比して述べる文章構成等、意見文に用いることでより読み手に説得力をもたせられそうだ。付箋に書いてきた根拠に表現の工夫を加え、どういう構成で説明すればよいか整理していきたい。

○実態を見届ける（見極める）

○既習の内容の定着を見届ける。

- ・構成の仕方に工夫はできているか。
- ・表現の仕方に工夫はできているか。

○本時の位置（役割）を見極める。

- ・「意見文」の本論に説得力をもたせるために、安田さんの書きぶりから、本時は文章構成や表現の効果について学習することを明らかにする。

○学習状況を見届ける

○文章構成や表現と筆者の意図を関連させて書かれているかを見届ける。

- ・筆者の目的や意図が理解できているか。
- ・文章構成（対比）、表現の仕方（具体的な数字・強調表現等）」に着目して、その効果が考えられているか。

○定着状況を見届ける

○自分の本論づくりと関連させて書くことができたかを見届ける。（7分程度）

- ・「具体的な数字」や「強調する言葉」、「対比」を用いることにより自分の本論の主張に説得力をもたせることができることをまとめの文から確認する。

小5社会科 「3つの見届ける」

単元名「自然災害を防ぐ」

単元の指導計画

単元を貫く課題 「自然災害が多い我が国で、命を守るために大切なことはなにか」				
第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
日本の自然災害について調べ、我が国の国土は自然災害が多いという特色に気付く。	自然災害に対する国や市の取組を調べ、災害から命を守るために、砂防ダムや堤防などの施設や広報や防災ラジオなど様々な取組をしていることが分かる(第2時「国の取組」第3時「市の取組」)。		住民による防災の取組が行われている理由を考え、防災に対する意識の大切さを理解する。	学習したことを生かして、自分たちができることを考える。

第4時 「地域のみんで災害を防ぐ」

ねらい

地域で大がかりな防災訓練が行われている理由を考えるを通して、地域には災害危険箇所があることに気づき、災害を防ぐためには、地域の危険箇所や避難場所を自分で把握し、地域全体で防災意識を高めることが大切であることが理解できる。

学習活動

1. 「地域の防災訓練」の様子から学習課題をつくる。
 - ・地域のほとんどの人が参加している。
 - ・毎年、訓練をしている。

私たちが住んでいる地域で、毎年、大がかりな防災訓練を行っているのはなぜだろうか。

2. 予想を交流し、追究の見通しをもつ。
3. 資料を活用して考えをつくり、交流する。

資料例① 過去の災害(台風や地震)

資料例② ハザードマップ

資料例③ 避難場所と避難経路

【過去の災害】・同じ被害を繰り返さないため
 【地域の危険性】・地域の危険な場所を知るため
 【避難方法】・どう避難するのかを確かめるため

地域の危険箇所や避難経路を知り、安全に避難できるようにするため

4. 考えを深める(全体交流・グループ交流)。

「知るためなら、危険箇所や避難場所を示した地図を配ればいいのに住民が集まって訓練するのはなぜ？」

実際に災害が起きたとき、地域の方々と協力して避難し、互いの命を守ることができるようにするため

5. 本時のまとめをする。

○実態を見届ける(見極める)

- 既習の内容の定着を見届ける。
 - ・我が国の国土は、自然災害が多い。
 - ・国や県や市では、様々な防災の取組をしている。
- 授業のねらいを見極める。
 - 自然災害が起こりやすい我が国で、命を守るために大切なことを、自助や共助の面から考えることをねらいとする。

○学習状況を見届ける

- 導入時点での見方や考え方を見届ける。
 - ・課題についての予想を挙手により確かめ、導入の時点での一人一人の考えを見届ける。
- 個人追究での見方や考え方を見届ける。
 - ・ノートの記事から、課題に対してどの視点から考えているかを見届ける。
 - ※事実のみを書いている児童には、読み取った事実を課題につなげて考えるよう支援する。
- 交流前半で見方や考え方の広がりを見届ける。
 - ・「過去の災害」「地域の危険性」「避難方法」の関連を自分の言葉で説明できるかを見届ける。
- 交流後半で見方や考え方の深まりを見届ける。
 - ・「自分で命を守る(自助)」だけでなく、「協力して命を守る(共助)」ことまで考えを深めているかを発言などから見届ける。

○定着状況を見届ける

- 本時では、10分程度の時間を確保し、課題についてまとめさせることで定着を見届ける。
 - ・課題について、「自分で」「地域の人と」というキーワードを使って、ノートにまとめさせる。
 - ・ノートにまとめたことをペアで伝え合う場を設定し、自分の言葉で説明できるかを見届ける。
- ・地域で、毎年、大がかりな防災訓練を行っているのは、地域の危険箇所や避難場所、経路などを自分で確認し、地域の人々と協力しながら、災害に備えるためだということが分かった。

中2社会科 「3つの見届ける」

単元名「日清・日露戦争と近代産業」

単元の指導計画

単元を貫く課題 「日本は、どのようにして不平等条約を改正したのか」					
第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
不平等条約改正への歩みを調べ、列強の植民地獲得が進む中、日本の国際的地位の向上への大きな流れが分かる。	日清戦争後の様子を調べ、勝利した日本が軍力を強める一方、三国干渉によりロシアへの対抗心が高まったことが分かる。	日本がロシアと戦った理由を考え、日本のアジアでの勢力を守るとともに、国際的地位を高めようとしたことが分かる。	列強に対抗する韓国や中国の様子を調べ、日本の韓国植民地支配や満州進出、中華民国が建国されたことが分かる。	綿糸の生産量が増加する理由を考え、産業が発展する背景には、労働者や小作人の厳しい労働があったことが分かる。	明治期の文化を調べ、教育の普及と共に欧米の文化を吸収し近代文化が形成されたことが分かる。

第3時 「日露戦争」

ねらい

日本がロシアと戦った理由を考えることを通して、賠償金や米英の支援で高めた軍力で、ロシアの進出を抑え、アジアでの勢力を守ろうとしたことに気付き、日露戦争の勝利が、国際的地位を高めるために必要であったことが分かる。

学習活動

1. 日露の勢力範囲や軍力から学習課題をつくる。
 - ・ロシアは、勢力範囲が広く、軍力も整っている。
 - ・戦ったとしても負けそうだ。

日本が、ロシアと力の差があるにもかかわらず、列強のロシアと戦ったのはなぜだろう。

2. 予想をもとに追究の見通しをもつ。
3. 資料を活用して考えをつくり、交流する。
 - 【日本の軍力】
 - ・日英同盟を結び、米英から戦費を調達していたから
 - ・下関条約の賠償金をもとに軍力を高めていたから
 - 【国民の意識】
 - ・三国干渉により国民の対露意識が高まっていたから
 - 【アジアでの勢力争い】
 - ・ロシアが、満州・韓国への進出を強めていたから
 - ・日本は、韓国での優位を確保したいと考えていたから

賠償金や米英の支援で高めた軍力で、ロシアの進出を抑え、日本のアジアでの勢力を守るため。

4. ポーツマス条約をもとに考えを深める。
 「日本の得る権益は少なく、国民は納得しないだろうに、ポーツマス条約を結んだのはなぜだろう？」

戦力は限界に達し戦争継続が不可能な中で、戦争の勝利が、列強の仲間入りのために必要だった。

5. 本時のまとめをする。

○実態を見届ける(見極める)

○既習の内容の定着を見届ける。

- ・日本が国際的地位の向上を目指した時代である。
 - ・日清戦争勝利によりアジアでの勢力を拡大した。
- ※前時までの振り返りなどから実態を把握するとともに、定着状況を見届ける。

○授業のねらいを見極める。

日本にとっての日露戦争の意味を、アジアでの勢力と日本の国際的地位の向上との関連から考えることをねらいとする。

○学習状況を見届ける

○予想での見方や考え方を見届ける。

- ・課題についての予想を挙手により確かめ、導入の時点での考えを見届ける。

○個人追究での見方や考え方を見届ける。

- ・ノートの記述から、課題に対して、どの視点から考えているかを見届ける。
- ※事実のみを書いている生徒には、読み取った事実を課題とつなげて考えるよう支援する。

○交流前半で見方や考え方の広がりを見届ける。

- ・「軍力」「国民の意識」「アジアでの勢力争い」の関連を自分の言葉で説明できるかを見届ける。

○交流後半での見方や考え方の深まりを見届ける。

- ・「アジアでの勢力争い」だけでなく「国際的地位の向上」を目指した時代背景とも関連させて考えを深めているかを発言などから見届ける。

○定着状況を見届ける

○本時では、7分程度の時間を確保し、課題についてまとめさせることで定着を見届ける。

- ・課題について、「アジアでの勢力」「国際的地位の向上」というキーワードを使って、ノートにまとめさせる。
- ・ノートにまとめたことを、ペアで伝え合う場を設定し、自分の言葉で説明できるかを見届ける。

日本が列強のロシアと戦った理由は、下関条約の賠償金や米英の支援で高めた軍力で、ロシアの進出を抑え、日本のアジアでの勢力を守るとともに、戦争の勝利によって、列強の一員としての国際的地位の向上を目指したからだと分かった。

小5算数科 「3つの見届ける」

単元名「割合(比べ方を考えよう)」

単元の指導計画

第1～2時	第3～5時	第6～7時	第8～9時	第10時
割合の用語とその意味、 (割合) = (比べる量) ÷ (もとにする量)である ことを理解する。	「パーセント(%)」、「百分率」 等の用語とその意味を理解 し、割合を百分率で求めるこ とができる。	比べる量やもとに する量を求める方 法を理解する。	やや複雑な場面におい て、割合(百分率)、比 べる量、もとにする量を 求めることができる。	割合にかかわ る練習問題に 取り組む。

第6時「割合の使い方ー1」

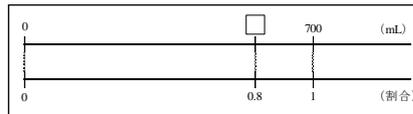
ねらい

もとにする量、比べる量、割合(百分率)を2本の数直線に表す活動を通して、もとにする量と割合から比べる量を求めるときはかけ算で求められることに気付き、比べる量を求めることができる。

学習活動

1 場面を把握する。

○問題文から割合(0.8)、もとにする量(700)、比べる量(□)をぬき出し、2本の数直線に表し、場面を把握する。



2 課題をつかむ。

○既習の学習内容をもとにして、追究の方法、結果の見通しをもち、課題を明確にする。

もとにする量と割合がわかっているときに、比べる量を求める式を考えよう。

3 個人で追究し、全体で交流する。

○数直線を活用して立式し、全体で交流する。
○つまずきのある児童については、割合が1より大きい場面を考えさせる。

4 本時の学習をまとめる。

○(比べる量) = (もとにする量) × (割合)
比べる量を求めるときには、もとにする量に割合をかける。

5 評価問題に取り組む。

6 本時の学習を振り返る。

○実態を見届ける(見極める)

○既習の内容の定着を見届ける。

- ・(整数) × (小数)の計算ができるか。
- ・百分率を小数に表すことができるか。
- ・割合を求める場面において、2本の数直線を活用して数量関係を把握し、演算決定できるか。

※帯活動や家庭学習の様子などから実態を把握するとともに、既習の内容の定着を見届ける。

○授業のねらいを見極める。

もとにする量と割合(百分率)から比べる量を求める場面の立式をねらいとする。そこで、それぞれの量と割合を2本の数直線に書き込み、数量関係を把握するまでを全体追究とし、数直線をもとにした立式を個人追究で考えることとする。

○学習状況を見届ける

○比べる量を求める立式ができているかを見届ける。

- ・次の方法で立式されているか、個人追究におけるノートや全体交流の発言などから見届ける。

<何倍の考えから>

- ・700の0.8倍にあたる量を求めるから、
 700×0.8

<数直線から>

- ・ $1 \times 0.8 = 0.8$ なので、
(もとにする量) $\times 0.8 =$ (比べる量)

○定着状況を見届ける

本時では10分程度の時間を確保し、次の学習に取り組むことで定着を見届ける。

○評価問題を提示し、演算決定の根拠を説明させることにより、どの児童も本時の学習内容を理解したか見届ける。

評価問題 ・(数量関係を表した2本の数直線を提示して) 果汁が60%ふくまれている飲み物があります。この飲み物400mLには、何mLの果汁が入っているでしょう。果汁を求める式が何算か、2本の数直線を使って説明しましょう。

○評価問題で演算決定の根拠を説明できた児童は、教科書を活用して繰り返す学習に取り組ませ、定着を見届ける。

繰り返す学習 ・教科書 P88 ①(1)(2)②

○振り返りの視点を明確にして、学習を振り返る。

(考え方のよさ) 2つの数直線を使えば、比べる量を求めるときにかけ算を使うことがわかった。(自分の考えを改善するきっかけになった考え方) もとにする量を1にすると、0.8に当たる大きさを求めればよいと考えられるからです。

中2数学科 「3つの見届ける」

単元名「確率」

単元の指導計画

1節			2節		第8時	3節	第10時
第1時	第2時	第3時	第4～5時	第6～7時		第9時	
ある事柄の現れる相対度数を調べ、その事柄の起こりやすさの度合いを知る。	実験回数を増やすと、ある事柄の起こる割合(相対度数)が一定の値に近づいていくことを知る。	確率の意味と「同様に確からしい」ことの意味を理解する。	起こり得る場合のすべてが同様に確からしいときの確率の求め方を理解し、確率を求めたり、確率の範囲を考えたりする。	樹形図や表を使って起こり得る場合を数え上げる工夫を行い、簡単な事象について確率を求めめる。	確率にかかわる練習問題に取り組む。	確率を用いて不確定な事象をとらえ、説明する。	確率にかかわる練習問題に取り組む。

第6時「確率の求め方の工夫(1)」

ねらい

2枚の硬貨を投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める活動とおして、樹形図を使うことで落ちや重なりなく起こり得るすべての場合を順序よく整理し正しく数え上げることができることに気付き、樹形図の意味、かき方を理解することができる。

学習活動

1 場面を把握する。

○問題文から場面を把握し、課題を明確にする。

2 課題をつかむ。

○既習の学習内容をもとにして、追究の方法、結果の見通しをもち、課題を明確にする。

落ちや重なりがないように、起こり得る場合が何通りあるか数えて、確率を求めよう。

3 個人で追究し、全体で交流する。

○落ちや重なりなく、わかりやすい数え方を追究し、全体で交流する。

4 樹形図を知る。

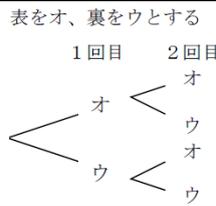
○樹形図を定義し、かき方を確認する。

5 樹形図のかき方を確かめる。

○樹形図を使って、起こり得る場合とある事柄の起こる場合を、数えて確率を求める問題に取り組む、樹形図のかき方を確かめる。

6 評価問題に取り組む。

7 本時の学習を振り返る。



○実態を見届ける(見極める)

○既習の内容の定着を見届ける。

・1個のさいころを投げるとき、3の目が出る確率を求めることができるか。

・赤玉3個と白玉2個を袋に入れて玉を1個取り出すとき、白玉の出る確率を求めることができるか。

※帯活動に練習することで一斉指導したり、個人の追究における机間指導で実態を把握し、教科書を使って振り返らせたりすることにより、既習の内容の定着を見届ける。

○授業のねらいを見極める。

樹形図を活用することにより、起こり得る場合を落ちや重なりなく数え上げることができることを理解することをねらいとする。したがって、樹形図の意味やかき方については教師が教える内容とし、樹形図のかき方を確かめる問題を位置付ける。

○学習状況を見届ける

○起こり得る場合とある事柄の起こる場合を次の方法で数え上げているかを見届ける。

・表にまとめる。

・「表」「裏」や「○」「×」などの言葉を使って図示する。

○表・裏と裏・表を区別していることを見届ける。
※樹形図については本時で教える内容であり、個人の追究において生徒自身が考える必要はない。

○定着状況を見届ける

本時では15分程度の時間を確保し、次の学習に取り組むことで定着を見届ける。

○樹形図のかき方を確かめる問題として、教科書の問題に取り組む。

・教科書P195②③

○評価問題として、教科書の問題に取り組む。また、活用を図る問題として、次の問題に取り組む。

・評価問題 教科書P195Q3 Q4

・活用を図る問題 赤玉3個と白玉2個を袋に入れて、玉を続けて2回取り出すとき、2回とも赤玉が出る確率を求めなさい。

○振り返りの視点を明確にして、学習を振り返る。

(樹形図のよさ) 順序よく整理し正しく樹形図をかけば、起こり得る場合の落ちや重なりなく数え上げることができる。樹形図をかくことで、表・裏と裏・表を区別すべきことがわかった。(樹形図をかくときの工夫) わかりやすい言葉や記号にすると、整理しやすい。

小5理科 「3つの見届ける」

単元名「電流がうみ出す力」

単元の指導計画

第1次（4時間）	第2次（3時間）			第3次（3時間）
電磁石の性質と、はたらきを調べる。	第1時	第2時	第3時	電磁石を利用した道具やおもちゃを作る。
	電磁石のはたらきを大きくする方法について調べる計画を立てる。	電流の強さを変えて電磁石のはたらきの大きさを調べる。	コイルの巻き数を変えて電磁石のはたらきの大きさを調べる。	

第3時

「コイルの巻き数と電磁石のはたらき」

ねらい

コイルの巻き数と電磁石に引き付けられるクリップの数を関係付けて調べる実験を行い、巻き数が多いほうが引き付けられるクリップの数が多いことから、コイルの巻き数を多くすると電磁石のはたらきが大きくなることを見い出すことができる。

学習活動

1. 立案した学習計画から学習課題をつくる。

コイルの巻き数を変えると、電磁石のはたらきの大きさはどうなるのか。

2. 予想をもつ。

- ・コイルの巻き数が多いほど、はたらきが大きい。
- ・コイルの巻き数を変えても、変わらない。

3. 実験を行い、結果を共有する。

- ・コイルの巻き数を50回と100回に変える。
- ・電流の強さは電池1個で変えない。
- ・引き付けられたクリップの数を調べる。

コイルの巻き数	電流の強さ	引き付けられたクリップの数			
		①	②	③	平均
50回	0.2A	6個	7個	6個	6個
100回	0.2A	13個	14個	12個	13個

（個々に3回実験して平均をとる）

4. 結果を基に考察する。

- ・コイルの巻き数を多くすると、引き付けられるクリップの数が多くなった。このことから、コイルの巻き数を多くすると、電磁石のはたらきが大きくなると考えられる。

5. 本時の学習をまとめる。

コイルの巻き数を多くすると、電磁石のはたらきが大きくなる。

6. 終末の事象提示を行う。

- ・コイルの巻き数が多い電磁石を使うと電池1個でも人がぶら下がる事象を提示する。

○実態を見届ける(見極める)

○既習の内容の定着を見届ける

- ・導線の長さやコイルの巻き数は変えずに、電流の強さだけを強くしたこと。
- ・電磁石に引き付けられるクリップの数が多くなったこと。
- ・電磁石のはたらきが大きくなったこと。

○本時のねらいを見極める

- ・調べる（変える）条件は何か。
- ・調べる条件を変えるときに、同じにする（変えない）条件は何か。
- ・以上を明らかにして実験を行い、実験の結果を的確に処理し、考察する。

○学習状況を見届ける

○見通しをもって実験できているか見届ける

- ・「巻き数」「電流の強さ」「導線の長さ」などのフラッシュカードを示し、一つの条件だけを変えることを確認する。

○事実に基づいて考察しているか見届ける

- ・根拠を示して考察を書くために、「巻き数」が多いときと少ないときに引き付けられたクリップの数を確認する。
- ・「コイルの巻き数」と「引き付けられたクリップの数」に着目できるよう言葉をかけ、記述していることを確認する。

○定着状況を見届ける

本時では、終末の事象提示と合わせて7分程度確保する。

○キーワードを活用したまとめができているか見届ける

- ・「コイルの巻き数」と「電磁石のはたらき」を関係付けて記述できているか確認する。

○実感を伴った理解ができているか見届ける

- ・本時学習した電磁石のきまりをダイナミックに体験できる事象を提示し、実感を伴った理解につなげる。

中2理科 「3つの見届ける」

単元名「天気とその変化」

単元の指導計画

第1章 (7時間)	第2章 (4時間)	第3章 (7時間)	第4章 (9時間)					
気象観測の仕方を学び、実際に気象を観測する。	前線通過の際の天気の変化と、前線の構造を関連付けて調べる。	日本付近の大気の流れと、日本の気象との関連を調べる。	窓や鏡、コップの結露などの日常的な現象の観察や露点の測定を行い、水蒸気の凝結現象について理解する。(1時間)	気温が下がったり上がったときの水蒸気の変化について、飽和水蒸気量と、気温、湿度の関係について考える。(3時間)	雲がなぜできるかについて考えたり、仲間と考えを交流したりして、その条件を出し合う。(1時間)	雲のでき方を調べる実験を通して、雲ができることを説明する。(1時間)	雲ができた後、雨、雪が降ったりする理由を理解し、適切な用語を用いて説明する。(1時間)	地球上の水は常に循環しており、この循環をもたらしているのが太陽のエネルギーであることを理解する。(2時間)

第6時

「雲はどのようにしてできるのだろうか」

ねらい

雲のでき方を調べる実験を通して、気圧が下がり空気が膨張し、気温が下がることで露点に達し、水蒸気が水滴となり雲ができることを説明することができる。

学習活動

- 【事象提示】積乱雲が発生している様子の動画を見る。

雲はどのようにしてできるのだろうか。

- 前時の霧の学習をもとに、課題に対する自分の考えをもつ。
- 実験を行う。

- ①簡易真空容器にデジタル温度計と気圧計、ゴム風船を入れ、空気を抜いていったときの風船の様子と温度変化を見る。



- ②簡易真空容器の中を少量の水で湿らせ、線香の煙を入れた後、空気を抜いていったときの様子を見る。

【結果】簡易真空容器の実験から事実を見つける。

- 簡易真空容器の中の空気を抜くことが、気圧を下げることであることを確認し、一人一人が考察を書き、交流する。

- 簡易真空容器の空気を抜くと、水滴ができたことから、気圧が下がり温度が下がると、水蒸気が露点に達して水滴になり、雲ができると考えられる。

- 本時の学習をまとめる。

空気が上昇して気圧が下がると、空気が膨張して温度が下がり、水蒸気が露点に達して水滴になり、雲ができる。

- 雲のでき方と大気の流れについての仲間の説明を聞く。

- 大気が上昇すると、気圧が下がり、温度が下がる。
- 露点に達した水蒸気が凝結して水滴になる。

○実態を見届ける(見極める)

○既習の内容の定着を見届ける

- 水蒸気が冷やされて露点に達すると水滴になること。
- 大気中で発生したこの水滴が雲であること。
- 以上の内容がノートにまとめられているか、確かめる。

○本時のねらいを見極める

- 大気の上昇に伴う気温の低下(断熱膨張)に触れ、空気の温度が下がると、飽和水蒸気量が小さくなること。
- 露点に達したときに飽和水蒸気量を越えた分が、水滴となって目に見えるようになること。
- この仕組みと規則性をとらえるようにする。

○学習状況を見届ける

○目的意識をもって実験できているか見届ける

- ゴム風船が膨らむ様子
 - 気圧計の数値の低下
 - 温度計の数値の低下
 - 空気は膨張すると温度が下がる事実をつかんでいるか確認する。
- 事実をつかんでいるか確認する。

○事実に基づいて考察しているか見届ける

- 容器内がくもった事実と、気圧と気温の低下とを関連付けて考えているか確認する。
- モデル実験の結果と自然界で雲ができるメカニズムを板書に位置付け、実験の結果と結び付けているか確認する。

○定着状況を見届ける

本時では、終末の事象提示と合わせて7分程度確保する。

○キーワードを活用した学習のまとめができているか見届ける

- 「水蒸気」と「露点」を関係付けて記述できているか確認する。

○実感を伴った理解ができているか見届ける

- 導入で見た積乱雲が発生するビデオを提示し、本時の学習を使って仲間(ペア)に説明し、実感を伴った理解につなげる。

中2外国語(英語)科 「3つの見届ける」

単元名「India, My Country」(NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 Lesson 8)

単元の指導計画

第1時	第2時	第3～6時	第7～9時	第10時
本単元の学習によりできるようになることを理解し、学習への見通しと意欲をもつ。	3ヒントクイズ等の言語活動を通して、新出言語材料(受け身)の意味、形式、機能を理解する。	教科書本文の内容について英語で口頭要約したり、その内容に関する自分の考えを英語で表現したりする。	単元の終末の言語活動に取り組む。	パフォーマンステストにより、本単元で学習した力が身に付いているかを確認する。

第6時 ※第5時に「USE Read」の内容理解を終える。

○実態を見届ける(見極める)

ねらい

ラーズが3つの言語を使い分けている理由及び多言語を使用しているラーズに対する自分の考えを、教科書本文等を使いながら、8文程度の英文で話すことができる。

学習活動

1 帯活動

○“What languages do you want to speak?” “Why?” などのQに対する考えをペアで交流する(2～3ペア)。

2 教科書本文の内容の復習

○“Why does Raj use Marathi?” などのQに答えることで、前時の復習をする。

3 学習課題の把握

○Oral interactive introductionにより課題の設定を行う。

ラーズが3つの言語を使い分けている理由は何? また、複数言語を使用しているインドの人たちのことをどう思う?

4 本文の音読

○異なる読み方により教科書を繰り返し音読する。

5 学習課題についてのペア対話

○教科書を閉じ、イラストを指し示しながら、学習課題について3～4のペアで対話する(板書されたキーワードを適宜参考にする)。

6 学習課題についての書きまとめ

- 教科書本文の概要を理解しているか否かを見届ける。前時の終末に、以下の方法により見届ける。
 - ・ラーズが使用している言語の「使用場面」と「目的」を一覧表にまとめさせる。
- 教科書本文を扱う時間でねらうことを見極める。内容を理解させること(前時)に加え、理解した内容や話題に関する自分の考え等を英語で表現させること(本時)までをねらう。

○学習状況を見届ける

- 教科書本文の概要を理解しているか否かを、本時においても見届ける。
 - 確実に見届けるとともに、理解が不十分な生徒には支援を行うために、QAを行う際は次の2点に留意する。
 - ・どの生徒も必ず答えなくてはならない状況にするためにS-Sで行わせる。
 - ・ペアでのQAを繰り返すことで、徐々に本文概要を思い出すことができるよう、複数ペアで行わせる。
- 教科書を見ずに口頭要約するために、本文を意欲的に繰り返し読むことができているか否かを見届ける。
 - 確実に見届けるために、ペアで教え合う時間を随時設けながら、以下の異なる読み方に取り組みさせる。
 - ・Chorus Reading ・Buzz Reading
 - ・Read & Look up ・Shadowing など
- 自分の考えをもつことができているか、またその考えを英語で表現できているか否かを見届ける。
 - 確実に見届けるために、複数ペアで対話活動をさせる。
 - 教員は、机間指導により次の2点を行う。
 - ・「努力を要する」状況と判断される生徒への個別指導
 - ・広めたい「考え」と「理由」の全体へのフィードバック(考える視点と使用できる英語表現の指導)
 - なお、「1」と「5」のような「自分はどう思うのか」「なぜそう思うのか」を英語で表現させる言語活動には、可能な限り毎時間取り組ませる。

○定着状況を見届ける

- 自分の考えをもつことができたか、またその考えを英語で表現できたか否かを見届ける。
 - 本時では10分程度確保し、「努力を要する」状況と判断される生徒を中心に机間指導を行う。授業後は、学習プリントを回収し事後指導を行い、定着状況を見届ける。以下は、授業終末の筆記例。

(学習課題の前半部分に対する答。5文) Raj speaks Marathi with his family at home. It's his mother tongue. He also speaks Hindi at school. Hindi is the major language of India. English is used in newspapers and on TV because many years ago India was ruled by the British people. (学習課題の後半部分に対する自分の考え。3文) I think people in India are great. If we have more chances to use English, I think we can speak English better, too. I want to use English more in English classes.

中2外国語(英語)科 「3つの見届ける」

単元名「My Favorite Movie」(NEW HORIZON English Course 2 Unit 7)

単元指導計画

第1時	第2～4時	第5～10時	第11、12時	第13時
本単元の学習によりできるようになることを理解し、学習への見通しと意欲をもつ。	3ヒントクイズ等の言語活動を通して、新出言語材料(比較変化)の意味、形式、機能を理解する。	教科書本文の内容について英語で口頭要約したり、その話題に関する自分の考えを英語で表現したりする。	単元の終末の言語活動に取り組む。	パフォーマンステストにより、本単元で学習した力が身に付いているかを確かめる。

第8時 ※第7時に「Dialog」の内容理解を終える。

ねらい

比較の表現等を用いて、自分の好きな映画を話題に、聞き手を引きつける工夫をして、5文程度のスピーチをすることができる。

学習活動

1 帯活動

○“Which do you like better, *Doraemon* or *Anpanman*?” に対する考えをペアで交流する(2～3ペア)。

2 教科書本文の内容の復習

○“What kind of movie does Becky like?” などのQに答えることで、前時の復習をする。
○異なる読み方により教科書を繰り返し音読する。
○教科書を閉じ、口頭要約をペアで交流する。

3 学習課題の把握

○oral interactive introduction により課題の設定を行う。

Ichiro likes *E.T.* the best. What's your favorite movie? ～ペアを引きつける工夫をして5文以上で話す～

4 学習課題についてのペア対話

○学習課題について3～4のペアで対話する(板書されたキーワードを適宜参考にする)。

5 学習課題についての書きまとめ

○ペアからの質問に対する返答も加えて書く。

○実態を見届ける(見極める)

- 教科書本文の概要を理解しているか否かを見届ける。前時の終末に、以下の方法により見届ける。
 - ・ベッキーと一郎の映画に関する嗜好を一覧表にまとめさせる。
- 教科書本文を扱う時間でねらうことを見極める。内容を理解させること(前時)に加え、理解した内容や話題に関する自分の考え等を英語で表現させること(本時)までをねらう。

○学習状況を見届ける

- 教科書本文の概要を理解しているか否かを、本時においても見届ける。
 - 確実に見届けるとともに、理解が不十分な生徒には支援を行うために、QAを行う際は次の2点に留意する。
 - ・どの生徒も必ず答えなくてはならない状況にするためにS-Sで行わせる。
 - ・ペアでのQAを繰り返すことで、徐々に本文概要を思い出すことができるよう、複数ペアで行わせる。
- 教科書を見ずに口頭要約するために、本文を意欲的に繰り返し読むことができているか否かを見届ける。
 - 確実に見届けるために、ペアで教え合う時間を随時設けながら、以下の異なる読み方に取り組みさせる。
 - ・Chorus Reading ・Buzz Reading
 - ・Read & Look up ・Shadowing など
- 自分の考えをもつことができているか、またその考えを英語で表現できているか否かを見届ける。
 - 確実に見届けるために、複数ペアで対話活動をさせる。
 - 教員は、机間指導により次の2点を行う。
 - ・「努力を要する」状況と判断される生徒への個別指導
 - ・広めたい「考え」と「理由」の全体へのフィードバック(考える視点、使用できる英語表現、話し方の工夫)
 - なお、「1」と「5」のような「自分はどう思うのか」「なぜそう思うのか」を英語で表現させる言語活動には、可能な限り毎時間取り組ませる。

○定着状況を見届ける

- 自分の考えをもつことができたか、またその考えを英語で表現できたか否かを見届ける。
 - 本時では10分程度確保し、「努力を要する」状況と判断される生徒を中心に机間指導を行う。授業後は、学習プリントを回収し事後指導を行い、定着状況を見届ける。以下は、授業終末の筆記例。

I like *NARUTO* the best. Look, *NARUTO* is the newest movie. (74ページの図を指さしながら)
But now it's the most popular Japanese anime in the world. Do you know the story? It's about the *Ninja* world and friendship. It moves people's heart. Why don't you watch it?